

化学物質による汚染・公害に どう向き合うのか

水俣学研究センターは、熊本学園大学において「負の遺産としての公害、水俣病を未来に活かす」ことを目的として、二〇〇五年四月の開設以来、研究・調査・教育活動をすすめています。

水俣病事件は今年で公式確認から七十年が過ぎましたが、現在も裁判で救済を求める人々が大勢います。様々な公害を経験した日本ですが、新たな化学物質による地下水汚染や香りによる被害が発生し、不安を抱えています。

改めて日本社会で起こっている化学物質汚染とその被害について学び、被害当事者たちが求める解決とは何かを聞き、汚染が分かったときに何をすべきか、行政・企業、一人ひとりができることは何か考えてみたいと思います

*受講はすべて無料です

*全講義受講者には修了証を発行します

お申し込みは 水俣学現地研究センター

水俣市浜町2-7-13 電話 0966-6315030

FAX 0966-8318883

e-mail m-genchu@kumagaku.ac.jp

開館時間 火～金 午前10時から午後4時

期間：2026年 9月29日～10月27日

毎週**火**曜日 午後6時30分～8時30分

会場：エコネットみなまた（熊本県水俣市南福寺60）

*カーナビ等には「南福寺1-60」と入力してください

9月29日 中地 重晴（熊本学園大学 水俣学研究センター長・社会福祉学部教授）

「国際的な化学物質管理の最新動向と国連プラスチック条約」

10月 6日 原田 浩二（京都府立大学教授）

「有機フッ素化合物PFASによる環境汚染と市民科学」

10月13日 木村-黒田 純子（環境脳神経情報センター副代表・医学博士）

「農薬使用の現状と課題、農薬再評価の問題点」

10月20日 平賀 典子（新潟大学非常勤講師）

「香害とは、現状と課題」*遠隔講演

10月27日 井上 ゆかり（熊本学園大学 水俣学研究センター研究員）

「水俣病70年アンケート調査報告」

後援：水俣市
水俣市社会福祉協議会